

# たいよう新聞

476号

9月10日発行

太洋基礎工業の頭脳!

## 技術本部紹介

「当社ならではの特殊土木の経験と実績を活かし、さらなる向上を目指す」  
2024年2月に発足した技術本部は、まさに当社の技術力の要です。  
今回は、事業の根幹を支える技術本部の役割と未来への展望に迫ります。



常務取締役 技術本部長  
かとう としひこ  
加藤 敏彦さん

### メンバー構成と業務内容

#### 多様な経験を持つ技術のスペシャリスト集団

2025年8月から5名体制となり、メンバーはゼネコン技術系OBなど、多様な経験を有するベテラン揃い。主な業務は、お客様や各支店からの設計・積算依頼への対応、そして、将来の技術を創出する「研究開発室」の取りまとめです。

#### 設計支援から研究開発、特許管理までを担う

研究開発室は「地中連続壁及び環境」「地盤改良」「修復」「法面」の4チーム。メンバーは本業と兼任で取り組んでいます。さらに、46件の保有特許の取りまとめやNETIS登録などの技術管理も担当。これらすべての業務を通じて「安全S・品質Q・コストC・納期D・環境E」の管理レベルを向上させることをモットーにしています。

### 技術本部の強み

#### 災害復旧にも生きる現場起点の開発力

最大の強みは、専門の施工会社として長年培った「特殊土木における経験と実績」を、次の技術開発に活かせる点にあります。この強みは大規模災害の復旧現場でも発揮されており、能登半島地震の被災地にて、今後の液状化を防ぐ地盤改良や傾いた施設の修復工事で、当社の工法が採用されました。また、熊本地震で崩落した熊本城外堀の石垣復旧でも、私たちの技術が貢献しています。



## 能登半島地震で傾いた 富山県高岡市の施設を 耐圧版工法ソイルバック 併用で修復

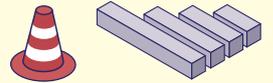
(施工:名古屋支店)



## 熊本地震で崩れた熊本市中央区にある法面をRBPウォール工法で復旧 (施工:九州支店)



### 技術本部が誇るこれまでの成果

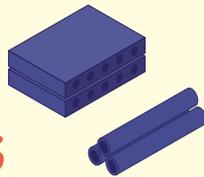


### 産学連携で挑む「見えない部分の見える化」

大学など外部機関と連携する「産学連携」で、常に次の技術革新を目指しています。現在進行中の大きなテーマが、地中の「切削効率向上」と、完成後の「竣工品質評価方法の迅速化」。これは目に見えない地中構造物の品質を、お客様へ迅速、かつ正確に「見える化」する技術になります。

研究成果は国内外の学会や国際会議で論文発表しており、こうした地道な活動が「研究開発に熱心な会社」というイメージを築き、当社の技術に対する信頼性向上につながっていると考えています。

### 現在の課題



### 研究開発に専念できる 人材の確保と育成

研究開発室は、メンバーの大半が各部署や現場の責任者で本業と兼務しており、専任者の不足が否めません。基礎研究はすぐに事業化しにくいいため他社が撤退する厳しい分野ですが、当社は未来への投資として推進する強い意志を持っています。だからこそ、研究開発に専念できる人材の確保と育成が喫緊の課題です。今後も4チームを中心に開発を継続し、少しでも前進できるよう取り組んでいきます。

### 技術本部が目指す 会社と社会における役割

### 技術力で事業を支え、 会社のブランドを築く

基本となるのは、お客様や各支店からの設計・積算依頼に迅速・的確に応え、事業の根幹を支えることです。その中で、私たちが開発した独自工法を提案し、採用につなげていきたいと考えています。同時に、論文発表などを通じて当社の技術力を社外にアピールし、「研究開発に熱心な会社」というイメージを確立することも重要な役割です。私たちは例えるなら、「炊飯器そのもの」ではなく「美味しいご飯が炊けるための技術」を売っています。その価値を正しく伝え、会社の未来と日本のインフラを支える一助となることを目指します。

# 最前線レポート

## 豊明校地第3駐車場地質調査

太洋基礎工業が担当したさまざまな現場を紹介するこの企画。今回は愛知県豊明市で行われた地質調査です。現場は日常的に使われている駐車場。安全に作業を行うために、調査部のKさんはどこに注力したのでしょうか？

名古屋支店 調査部 部長

Kさん



### 現場概要

契約期間	2024年6月23日～7月31日 (現場作業は6月23日～26日の4日間)
場所	愛知県豊明市
発注者	学校法人F学園
元請	株式会社浅沼組
一次下請	太洋基礎工業株式会社
現場体制	3名
施工目的	立体駐車場建設に伴う基礎地盤調査



B-1地点 全景

### 現場の特徴

#### 調査の難易度を上げた「高低差」

今回の現場は、傾斜地にある駐車場でした。調査地点の標高が異なると、地盤の硬さにも違いが生まれます。そこで私たちは、標高が高い地点をより深く掘削することで、全体の地盤状況を正確に把握する計画を立てました。これは一見単純な作業に見えるかもしれませんが、一筋縄ではいかない難しい作業です。現場ごとの状況を的確に捉え、最適な計画を立てられるか。その判断が、調査全体の精度を大きく左右します。

### 現場を振り返って

#### 順調な進行と、改めて胸に刻んだ信条

おかげさまで、調査は特に問題なく、計画通りに完了しました。雨の日は大変でしたが、無事に終わられたことに安堵しています。今回の現場を振り返り、改めて感じたのは、この仕事の責任の重さです。地面の下は、誰も直接見ることはできません。だからこそ、私たちが測定したデータや観察結果が、その土地の唯一の「真実」となるのです。そのことを胸に刻み、一つひとつの作業に誠意を込めることが、次の信頼につながるのだと再確認しました。



B-2地点 標準貫入試験

### 苦労した点と乗り越え方

#### 日常空間での調査に潜む難しさ

今回の現場は、日常的に利用されている大学の駐車場。調査のためには、一部区画を閉鎖する必要があります。そのため、駐車中の車を移動していただくなど、利用者の方々への丁寧な対応を心がけました。

また、敷地内の地下には水道やガスといった、重要なライフラインが複雑に通っています。これを誤って傷つけることは絶対に許されません。図面と照らし合わせながら、その位置を一つひとつ徹底的に確認していく作業は、特に神経を使いました。

### 印象深かった出来事

今回の現場とは異なりますが、同じ学校法人F学園の敷地内で、毎年調査の機会をいただいています。2024年、古い井戸の近くを調査した際には、不思議な出来事に遭遇しました。地下20mまで掘削したところで、作業に使う水がすべて地中のどこかへ逃げてしまったのです。水が向かった先は、今は使われていない古い井戸でした。現在の図面には載っていない過去の営みの痕跡が、不意に顔を出す。これこそが「土地の歴史」であり、長年この仕事をしていると、時折このような発見があるのがおもしろいところです。

## 興味を持ち、積極的に話を聞く姿勢を大切に

土木の仕事に限らず、何事も「興味を持つこと」が全ての始まりだと感じています。特に大阪支店では新しいことに挑戦する機会が多く、自ら興味を持って考え、学んでいかなければ仕事が身につきません。現場では、最終的な目標は同じでも、そこへ至る過程には人それぞれの考え方や多様なルートがあります。周りの意見を理解し、最適な方法を見つけるには知識が必要不可欠となってきます。その知識を蓄えるためにも、まずはすべての事に興味を持つこと。そして、周りをよく観察し、積極的に先輩方の話を聞く姿勢が、自身の成長に繋がるのだと思います。

## 何事も挑戦する姿勢を常に持ち続ける

今年の8月に職場の仲間と富士登山に挑戦しました。もともと登山が趣味の集まりというわけではなく、「日本一の山に一度は登ってみたい」という話で盛り上がったのがきっかけです。本番に向けて、休日には六甲山などでトレーニングを重ねました。私自身は2023年に子どもと登って以来2回目ですが、何が起るかわからないため気は抜けません。仕事とはまた違う目標に向かって仲間と準備を進める時間は、とても新鮮です。



大阪支店  
工事部 部長 Mさん

# 声援

## 2025年 安全大会レポート 第3弾

当たり前のことを当たり前を実施する意識と、前向きな声かけが、安全な職場を築く鍵となります。

### 東京支店



環境開発部 主任  
Iさん

### 熱中症・労働災害防止は「声かけ」から!

熱中症や労働災害の原因には、自己管理不足や不慣れた作業、確認不足が挙げられます。これらは日頃のコミュニケーションで解決できる課題です。特に、若手社員への積極的な声かけや危険察知時の情報共有が重要です。さらに「(A) 当たり前のことを (B) バカにせず (C) ちゃんとやる」ことが「(D) できる人」であるという「ABCD」という行動指針は、私の心に深く響きました。

開催日: 7月26日(土)

場所: ビジョンセンターグランド東京浜松町UD芝大門ビル

内容: 開会宣言、主催者挨拶、協催者挨拶、安全衛生推進者・本社安全環境部長からのメッセージ共有、安全表彰、安全講話、安全宣言、閉会の辞

### 総括

#### 熱中症と労働災害のない安全な現場へ

物理的な対策だけでなく、現場での声かけや顔色の確認を通じて、お互いの健康状態を把握し合うことの重要性が強調されました。そして、業務内容に関する確認はもちろんのこと「何でもない声かけ」が、異変の早期発見につながることを学びました。この学びを活かし、コミュニケーションを密にとることで、熱中症も労働災害もない安全な現場を皆で作りに上げていきたいと思っています。



挨拶 清協力会長▶



▲安全講話 小宮様



▲安全表彰者

## 令和7年度「全国労働衛生週間」が実施されます

全国労働衛生週間は職場における労働者の健康の保持増進と快適な職場づくりを目的としております。

スローガンは「ワーク・ライフ・バランスに意識を向けて ストレスチェックで健康職場」です。本週間は10月1日から7日まで、その準備期間として9月1日から30日までとなっております。日頃の健康管理や職場の衛生環境を見直し、より安全・快適な職場づくりを目指しましょう。

### 訂正とお詫び

たいよう新聞475号P2「安全大会レポート」欄に掲載された文字に誤りがありました。

以下の通り訂正させていただきます。

誤: 駿洋会(しゅんようかい)

正: 駿洋会(すんようかい)

読者の皆様および関係者の皆様にはご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

今後はより一層の確認を徹底し、再発防止に努めてまいります。